

Ikiiki
Maebashi
Jin



空手で子どもたちを元気に



障害者空手道大会で優勝
深津 修一さん・62歳
柏倉町

10月4日に東京武道館で開催された「第10回全日本障害者空手道競技大会」形競技男子個人戦で優勝した。

「形や動きが美しいだけでは駄目。目の前に相手がいると常に意識することで本当の空手の形になるんです」

32歳のとき、酪農作業中にトラクター作業機で右腕を切断してしまった。しかし、ひと月もしないうちから仕事に復帰し、空手も再開した。

「右腕が無いのは障害ではなく単なる身体的特徴。困る事は拍手くらいです」

現在、宮城中と自宅併設の道場で空手道の普及に取り組み傍ら、自らも選手として鍛錬を積む。今月は審判試験と

昇段試験を受験。挑戦を続けている。

「子どもに教えるためには、同じ経験をすることが大切なんです。だから練習も一緒にこなしていきますし、大会出場も続けていきます」

道場に通う子どもたちのことを楽しそうに話す深津さん。

「今の自分にできることは何かを考えた時期がありました。そのとき空手を教えることで子どもたちを元気にしたいこうと思えました。子どもたちが元気になると、社会も元気になっていくんですよ」

次回の大会では組手競技とのダブル優勝を目指す。「子どもたちの応援が何よりうれしい」と笑顔で語った。



↑ 不用品が「お宝」に



10月19日にヤマダグリーンホーム前橋で、リユース宝市が開催されました。「お宝」を探そうと約1,000人が駆けつけ、会場は大盛況。集められた不用品、約7tのうち約6tが新しい持ち主の元へ。残りの多くも再資源化され、ごみ減量にも一役買いました。



この連載では、市民に寄稿してもらい、さまざまな角度でアーツ前橋を紹介します。第7回は、アーツ前橋メンバーシップ会員で、青猫祭代表の中島隆宏さんです。

この場所で記憶をつむぐ

中島隆宏さん・36歳

私の生まれ故郷で、家族とともに暮らしているこの街に、アーツ前橋が誕生したことはとてもうれしいことです。街の中心部にあり、かつてはデ



パートであった建物から、リノベーションで美術館に生まれ変わったアーツ前橋。この場所を訪れると、父に連れてきてもらった映画館や前橋まつり、デパートでの食事など、幼少期の記憶が今でもよみがえります。パンチングメタルで新しい表情に変わりましたが、心温まる記憶は現在にながっています。圧倒的に街に近く、私にとって身近で親しみやすい存在。雨宿りや待ち合わせといった暮らしの合間に良い時間を過ごしています。展示室を回遊すると、まるで街の中をぶらぶらと歩いている時のような自然な感じがあり、街とつながっているような感覚に。窓からは千代田通りを行き交う人々の活動に出会うことができます。

ここが誕生して早1年。いつも仕事帰りに寄るのが日常の一部になってきました。信頼できる仲間や家族と何度も訪れ、興味や関心を共有し、何げ無い会話を重ねることで、この美術館に私なりの新しい記憶を刻んでいるところです。

問い合わせは
アーツ前橋 ☎027-230-1144



↑ 防府市と花燃ゆで交流広げる

10月28日に前橋公園で、至誠の梅植樹式を開催。初代県令の楢取素彦が晩年を過ごした山口県防府市と本市の友好のしるしとして、防府天満宮の梅の木を「至誠の梅」として受けました。また、本市からは前橋藩主・松平直克お手植えのざくろの苗木を返礼しました。



↑ 100年の時を越えて再会

11月1日、「萩原朔太郎と室生犀星 出会い百年記念行事」を開催しました。2人の出会いから100年を記念して、朔太郎の孫・萩原朔美さんと犀星の孫・室生洲々子さんが2人に代わって前橋駅で再会。ゆかりの地を訪問後、孫同士の対談などを行いました。